

弥生俳句・短歌集

みなみうわ俳句会

水仙や風を過ごして真直ぐ立つ
 松飾り心の余裕とり戻す
 昔むかし恵比須回しを追いかけて
 初春や勇姿を見せし鶯の舞う
 もち花の染めた空間幸福色
 初春のかもめ大漁旗に舞う
 遠き日より友駆けて来る初便り
 冬の夜は賢治の詩の近くあり
 電線はバイオリンの弦虎落笛

御荘俳句会

春雨や声をかけたき傘の内
 春蘭や高き値札のついたまま
 春潮のひたりひたりと朱の鳥居
 春立つやより猛くなり護摩供養
 啓蟄や石に居座る陶蛙
 正座して天目椀に見る余寒

濱椰子

春なれや空海仏も毬を手に

宮下 峰月

濱 初榮

木村 智子

長尾 則夫

矢鋪 都

中川千代子

小島 泰子

田口ひさ子

若林八重子

山本 金子

尾崎 松恵

加洲勢津子

濱野 康子

日捲りへ託す一日の新暦
 二日はやランナーにあるころざし

初日記言葉ふくらむペンの先
 初春の光を肩に参拝す

縄跳びの子が早春の風回す
 夫の腰お灸の毎日睦月なり

冬ざるる風の矢受けし篠の道
 七草や足らぬ一種水菜切る

西海俳句会

春よ来い畑耕運機かけ終えて
 一月のわさび芽の出る厨かな
 幼囲み笑う媪や初御堂
 平凡に年重ねたり老の春
 帰省子の背丈くらべる大晦日

新くさの葉短歌会(はこべ)

ともかくも山も峠ものりこえてかしわ手をうつ心しずめて
 帰りゆく娘を送り来し足どりに一人にもどる気魄を持ちぬ
 正月の三日もすぎて吾が部屋に今朝は一人のコーヒー入れる
 爆音の響けど姿見えぬまま雲間にへりの音は消えゆく
 笑い声とび出しそうな孫の顔のメールを見つつはむ朝食
 娘ふたりありたることの幸せをしみじみ思ふみ葬り終へて

山口 董

吉田モミエ

三好ミキエ

若山 節子

小島 泰子

吉田 朝子

山口 和子

若林八重子

利根早智江

吉田 朝子

吉田 弘定

吉田 久江

吉田 笑代

倉田美津枝

市川コマエ

斉藤トミ子

長田ハル子

西崎 文恵

前田 充

はじめまして。赤ちゃん。

1月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

1月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。